

世界スーフィー・フォーラムにおけるモディ首相の演説 (2016年3月17日)

サイード・モハマッド・アシュラフ 全インド ウラマ・マシャイク評
議会創始者・理事長、
エジプトのシャウキ・イブラヒム・アブデル・カリム・アラム最高ムフ
ティ、

バグダッドのシャイク・ハシムディン・アル・ガイラニ師、

バングラデシュのサイド・ミンハジ・ウル・リーマン師、
パキスタンのディワン・アーメド・マスード・チスティ師、
ニザムッディーン・ダルガのサイド・ニザミ師、

アジメール・シャリフのサイド・チスティ師、
閣僚の皆様、

インドの研究者の皆様、スーフィーの皆様、

近隣諸国や遠くの国々からお越しの皆様、

永久なる平和の泉、古代から続く伝統と信仰の源として、世界中の宗教
を受け入れ、育んだこの国へ、ようこそいらっしゃいました。

「世界はひとつの家族(ヴァスダイバ・クトウンバカム)」という不変の
信念を抱く国民の元へ、ようこそいらっしゃいました。

人類はひとつの共同体であり、その中の人間はそれぞれ違いを有してい
る、という聖なるコーランの教えに調和する信念、

国連に掲げられた、偉大なペルシャ人のスーフィー詩人・サーディの言
葉「すべての人間は同じ源から来た、私達はひとつの家族だ」に共鳴す
る信条、

多様な人種、文化、信仰から生まれた卓越した才能が創り上げた古都デ
リーへ、ようこそいらっしゃいました。

インド国家と同様に、この都市も、少数派の宗教から何十億人という信
者を持つ宗教にいたるまで、あらゆる信仰を受け入れる心を持っていま

す。

デリーに建立された荘厳な寺院には、偉大なスーフィーの聖人メーブーブ・イー・イラヒ師とハズラト・バクティヤル・カキ師を祀る寺院も含まれています。これらの寺院には、世界中のあらゆる宗教の信者が集まって来ます。

人類が深刻な状況に直面している今、このフォーラムを開催することには、大変大きな意義があります。

暴力の影が長く伸びる中で、皆さんは希望の光を投げかけています。

通りで若者の笑い声が銃声にかき消される中で、皆さんは癒しの声を発しています。

世界各国が平和と正義のために力を合わせて戦おうとしています。この会議は、生き方そのものが平和、寛容、愛を説くメッセージとなっている人々の集まりです。

出身地や文化は違っても、皆さんは共通する信仰で結ばれています。

皆さんが話す異なる言語は、調和のメッセージの中で溶け合っています。

皆さんは、偉大な宗教の強固な基盤の上に築かれた、イスラム文明の豊かな多様性を体現しています。

イスラム文明は15世紀までに、科学、医学、文学、芸術、建築、商業において、偉大な高みに達しました。

イスラム文明は、ムスリムの人々の偉大な才能や、古代エジプト、メソポタミア、アフリカ、ペルシャ、中央アジア、コーカサス地方、東アジア地域などの多様な文明とのイスラムの関わりに生まれ、仏教、インド哲学、科学などの影響を受け、発展しました。

イスラム文明は自らとともに、世界も豊かにしてきました。

イスラム文明は、人類の歴史に恒久的な教訓をもたらしました。すなわち、人間の前進、国家の進歩と世界の繁栄は、開放的な態度と探求心、

関与と和解、多様性の尊重を通じてのみ達成することができるという教えです。

これは、イスラムが世界にもたらした最も偉大な貢献のひとつである、スーフィズムの教えです。

エジプトと西アフリカで生まれたスーフィズムは遠い国々まで浸透しました。スーフィズムは信仰と人間的価値観の旗を高く掲げ、他の文明の精神的思想から学びながら、聖人たちの生き方と教えを説き、信者を惹きつけてきました。

サハラ砂漠以南のアフリカ、東南アジア、トルコ、中央アジア、イラン、インドなど他の地域では、スーフィズムは、宗教の実践や教訓を超えて全能の神ともっと深く一体化したいという人類の普遍的な欲望を反映するものとなりました。

そんな精神的かつ神秘的な探求の中で、スーフィーは全能の神の普遍的な教えを体験したのです。

人生の完成は、神に愛される性質に反映されています。

万物は神の創造物であり、私達は神を愛するならば、神の創造した万物を愛さなければなりません。

ハルザット・ニザムディン・アウリヤはこう述べました。「全能の神は人間のために神を愛する者、また全能の神のために人間を愛する者を大切にする」。

すべての人間は一体であり、神のすべての創造物は一体です。

スーフィーにとって神への奉仕とは、人間への奉仕でもあるのです。

カワジャ・モイヌディン・チシュティは、あらゆる信仰の中で最も全能の神を喜ばせるのは、つましい生活を送る、抑圧された人々に救いを与えることである、と述べました。

チチュティはまた、こう言いました。「私達は、価値観により形成された心象の中で、太陽のような愛情、川のような寛容、大地のような献身

を持たなければならない。これらは、わけ隔てなくすべての人間に恩恵をもたらすからである」と述べました。

また、スーフィズムの人道主義は、社会における女性の位置とステータスを擁護しました。

スーフィズムは多様性と多元主義を称賛します。ハズラット・ニザムディン・アウリヤは、すべての人間には自分なりの真実への道、信仰、尊敬の対象がある、と述べました。

これらの言葉は、「宗教に強制はない」「すべての人には、その人なりの信仰の仕方が授けられている」という聖なる予言者のお告げを反映しています。

「偉大な海の懐に向かい、あらゆる方角の山から水が流れこむ」という、ヒンズー教の一派であるバクティ派の聖人が残した格言の魂とも共鳴しています。

「神はすべての人の心の中で混ざり合っている」と述べたブレー・シャアの智慧とも共鳴しています。

これらの価値観は、私達の時代に必要とされているものを示しています。

これは自然の真実です。私達は、森の巨大な多様性の中に存在する完璧なバランスと調和から、この智慧を学ぶことができます。

スーフィズムの教えは学校や宗派といった枠を超越しています。スーフィズムとは、聖なる予言者とイスラムの普遍的価値観から生まれた精神的探求です。イスラムという言葉は、平和を意味します。

私達はアラーの99の名前について思いを馳せる時、どの名前も力や暴力を意味しないこと、また最初の二つの名前が「哀れみ」と「慈悲」であることを思い出します。アラーは「哀れみ (Rahman)」であり、「慈悲 (Raheem)」でもあるのです。

スーフィズムは平和、共存、哀れみ、慈悲と平等の声であり、普遍的同胞愛への呼び掛けです。

インドがかつてイスラム文明の中心地となったように、我々の国は、最

も躍動感あふれるスーフィズムの拠点としても台頭しました。

スーフィズムは聖なるコーランとハディースに深く根ざしながらも、インドにおけるイスラムの顔になりました。

スーフィズムは、インドの開放性と多元主義の中で開花し、インドの精神的伝統との関わりの中で、インド的な思潮を発展させてきました。

スーフィズムはまた、インド独特のイスラム遺産の形成を促しました。

私達はこの遺産を、インドの国家と私達の集団的な日常生活の一部を織りなす芸術、建築、文化の各分野の中に見ることができます。

また、インドの精神的・知的伝統の中にも見ることができます。

この遺産は、世界の文化形成に多大な貢献をした偉大な国家インドの包摂的文化を強化する力となりました。

ババ・ファリドやグルー・グラント・サヒーブの詩にも見られるように、私達は同じ精神的な繋がりを感じています。

私達は、スーフィー寺院の共同食堂や、貧しい空腹の人々を惹きつけた地元の聖者(ピール)の墓地から、哀れみの心を感じ取ることができます。

ヒンダヴィ語は、スーフィーの修道院で話されていました。

スーフィズムは、インドの詩に対し、大きな貢献をしました。また、インド音楽の発展にも深遠な影響を及ぼしました。

スーフィーの詩人・音楽家だったアミール・クスロウは、他者には比肩できないほどの大きな影響を及ぼしました。8世紀たった今でも、彼の詩や革新的な音楽は、ヒンダスターニ音楽の魂の一部であり続けています。クスロウほどの情熱をもってインド音楽について語った人物は、他には居ませんでした。

これほど美しくインドへの愛を表現した人物が他にいたでしょうか？

「インドは頭から爪先まで、全身が天国の姿をしている、

アダムは楽園からやってきた、
きっとインドの果樹園へ送られたのだ。

楽園の鳥クジャクの住処になった国が、楽園でないなどという事が、あり得るだろうか？」

インドのムスリムを定義づけるのは、このスーフイズムの精神、愛国心、そして自国への誇りです。

これらは、わが国に永遠に受け継がれる平和、多様性、信仰の平等を反映しています。

インドのムスリムはインドの民主主義の伝統にどっぷりと浸かり、自国における自分たちの立場に自信を持ち、国の未来のために投資をしています。

彼らは、他の何よりも、インドのイスラム遺産の価値観によって形成されています。それらの価値観は、イスラムの最も崇高な教えを支持し、テロリズムと過激主義の勢力を常に拒否してきました。

今、彼らは世界のあらゆる場所に行き、インドの価値観と伝統を伝える大使として活躍しています。

私達は国家として、植民地支配の打倒と自由への闘争のために立ちあがりました。

独立を前に、一部の人々は国を去ることを選びました。私は、この事は当時の植民地政治とも関係があったと思っています。

マウラナ・アザドのような最も偉大な指導者や、マウラナ・フセイン・マダニのような重要な精神的指導者、そして何百万人もの一般市民は、宗教による国の分割を拒否しました。

今、インドは、多様性がありながらも統一された国として、一人一人の国民の闘争、犠牲の精神、勇敢さ、知識、技能、芸術、そして誇りの力をもって、前進しています。

一本一本が音を奏でるシタールの弦のように、インド国民はひとつになり、美しいメロディーを奏でています。

これがインドの精神であり、我が国家の強みです。

ヒンズー教徒、イスラム教徒、シーク教徒、キリスト教徒、ジャイナ教徒、仏教徒、少数派のパルシー、そして信仰者も非信仰者も皆、インドのかけがえのない一部です。

かつてインドにもたらされたスーフィズムは、今日インドから、世界中に広がっています。

しかし、インドで発展したこの伝統は、南アジア全体に属するものでもあります。

ですから私は、この地域の人々に、この輝かしい私達の遺産を育み、蘇らせて欲しいと、訴えたいと思います。

テロリズムの暴力的な力ではなく、スーフィズムの精神的な愛が国境を超えて流れていくなら、この地域はアミール・クスロウが描いた楽園になるでしょう。

先程申し上げた事を、もう一度違う言葉で言います。テロリズムは人間を分断し、破壊します。

テロリズムと過激主義が私達の時代の最も破壊的な勢力となった今、スーフィズムの教えは世界的な重要性を持っています。

西アジアの紛争地、はるか遠くの国々の静かな都市、アフリカの辺境の村、私達の地域の街で、テロリズムは日常的な驚異となっています。

私達は毎日、このような恐ろしいニュース、残酷な画像を目にします。

- 無垢な子供たちの墓場と化した学校
- 葬列と化した祈りの集会
- 爆音にかき消されたアザーンの声
- 血に染まったビーチ、ショッピングモールでの虐殺、道路で黒煙を揚げる車
- 繁栄した町、かけがえのない遺産が破壊される様子
- 子供の棺を担ぐ両親、離散した生活共同体、故郷を負われた何百万人

もの人々、炎と荒れる海の間にはさまれた避難民。

将来のための約束や機会に満ちたこのデジタル世紀において、テロリズムの範囲は広がっており、死者の数も年々増え続けています。

今世紀初頭以降、何万もの家族が世界でぼつ発するテロリズムの犠牲となり、愛する者を失いました。

2015年だけでも、90か国以上の国々がテロ攻撃を体験しました。100か国以上の国の親たちが、シリアの戦場で戦う子供を失う痛みを毎日経験しています。

グローバル化、モバイル化が進む今の世界においては、一つの事件が多数の国の市民の命を奪います。

私たちは毎年テロ対策に1000億ドル以上を投じますが、本来ならばそのお金は貧しい人の生活を改善するために使うべきものです。

その影響力は、数字だけで測れるものではありません。テロは私達の生活の在り方をも変えつつあります。

国家の政策や策略のための手足になる勢力や集団がいます。間違った大義や信仰のために、集団に引き入れられる者もいます。

各地のキャンプで組織的訓練を受ける者たちもいます。国境のないサイバー空間で生き甲斐を得る者もいます。

テロリズムは様々な動機や大義を利用しますが、それらのどれもが、決して正当化できないものです。

テロリストは、自らが大義とする宗教を歪曲します。

テロリストは他国よりも自国で、土地を破壊し、同胞を殺します。

テロリストは地域全体を危険に陥れ、世界をより不安定で暴力的な場にしていきます。

テロに対する戦いは、特定の宗教との衝突ではありません。決してそうではありません。

それは、人道的価値観と非人道的勢力との戦いなのです。

それは、軍事力、情報収集、外交的な手段のみを使ってなされる紛争ではありません。

それは、私達の価値観と宗教から生まれた真実のメッセージの力をもって勝利すべき戦いでもあります。

前にもお話しましたが、私達はテロリズムと宗教のあらゆる繋がりを拒絶しなければなりません。宗教の名を借りてテロを広める者は、非宗教的です。

私達は、イスラムの原則と崇高な人間の価値観を擁護するスーフィズムの教えをさらに推し進めていかなければなりません。

これは、国家、社会、賢人、研究者、家族が果たすべき務めです。

しかし私は、スーフィズムの教えは、テロ撲滅だけに留まるものではないと思います。

調和、福祉、人間への哀れみの心と愛は、公正な社会の土台となります。

これこそが、「皆のために、皆と共に開発を」という私の信条を支えている原則です。

また、これらの価値観は、私達の社会における多様性を守り、育てていくためにも重要です。

多様性は自然にもともと備わっている真実であり、社会の豊かさの源でもあります。これが紛争の原因となることは、あってはなりません。

今私たちに必要なのは、憲法の条項や法的な安全策だけでなく、皆が所属し、皆の権利が安全に守られ、皆が未来に自信が持てる、包摂的で平和な社会を作るための社会的価値観です。

現在世界は、著しく流動的な変換期にあります。20世紀半ばは、歴史の重要な転換点でした。新たな世界秩序が生まれました。多くの新しい国家が誕生しました。

新世紀が始まった今、私達は再び、人類史上稀にみる規模の転換点にいます。

世界の多くの場所では、人々が未来に確信を持たず、国家として社会として未来にどう向かっていくのかに、不安を感じています。

こういった時代に、世界は暴力や紛争に対し、もっとも脆弱になります。

グローバル社会は、以前より警戒を強化し、人道的価値観の輝かしい光をもって闇の勢力と対峙しなければなりません。

「罪のない一人の人間を殺す者は、人類全体の殺戮者である」「一人の命を救うことは、人類全体を救うのと同様である」とする、聖なるコーランの教えを今こそ想起しようではありませんか。

ハズラット・モイヌディン・チシュティ師の教えに啓示を受けようではありませんか。

あなたの精神の光で、紛争や戦争の黒い雲を吹き払い、人々の間に善意、平和、調和を広めてください。

スーフィー詩人ジャラルディン・ルミの言葉-「あらゆる人間の顔を、自分の顔に持て。どれに対しても判断を下すことなく」に表れている、無限の人道主義を想起しようではありませんか。

「善を尽くせ、平和を探し、追い求めよ」と呼びかける聖書の説教を、
「川と、川面の波は一体である」とする、カビールの万物一体論を、
グルー・ナナクの「世界のすべての人々が繁栄し、平和であるように」という神への祈りを、
行動に移そうではありませんか。

「あらゆる宗教の信仰者の間に分裂があってはならない。あらゆる宗教の信仰者は、不和ではなく調和の旗をかかげなければならない」とする、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの訴えに啓示を受けようではありませんか。

仏陀とマハヴィラが説く永遠の非暴力に対する私達の思いを、いま再確認しようではありませんか。

ガンディーの国で行われている、このフォーラムにおいて、

時代を超えた、次の詠唱で終わる祈りを唱え、

オーム・シャンティ、シャンティ・シャンティ：平和、平和、平和、世界における平和、.

世界にメッセージを贈ろうではありませんか。

- 調和と人道主義のメロディー、
- 多様性の擁護、万物一体の精神
- 哀れみの心と寛容を伴う奉仕、
- テロリズムと戦う覚悟、過激主義の拒否、

- 平和を推進する決意。

愛の優しさと普遍的な人間の価値観をもって、暴力に立ち向かおうではありませんか。

希望の光を取り戻し、この世界を平和の園に変えていこうではありませんか。

皆さんがここに居ること、皆さんが支持し、守ろうとしているもの、皆さんがより良い世界の実現のために果たしている役割に、感謝いたします。心から感謝申し上げます。
